

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（3年次）

～子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～

### 生活科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

生活科の目標は、今回の改定で幼児期とのつながりや小学校低学年における各教科における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが必要であると示されている。

生活科における見方・考え方とは、身近な生活に関わる見方・考え方であり、それは身近な人々、社会及び自然を自分との関わりの中で捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすることであると考えられる。そこで、「思考」や「表現」が一体的に繰り返し行われ、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されることを示している。

自立し生活を豊かにしていくことは、生活科における究極の子どもの姿である。生活科では、学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立という三つの自立への基礎を養うことを目指している。これは、一人ひとりの児童が幼児期の教育で育まれたことを基礎にしながら、将来の自立に向けてその度合いを高めていくことを指す。生活科の学びを通して、実生活において自分でできることが増えたり、活動の範囲が広がったりして自分自身が成長すること、また、自分の成長とともに周囲との関わりやその多様性が増し、一つ一つの関わりが増すことが大切である。

生活科における「つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは、子どもが「～したい」という思いを持って自ら学習対象と繰り返し関わる中で、「どうして〇〇なんだろう？」「〇〇してみよう」と思考したり、表現したりすることを通して、学習対象や自分自身への気付きの質が高まっていくことであると考える。そして、それぞれの気付きを実感し、その良さを友達と認め合ったり、振り返り捉え直したり、気付きと気付きを結び付けながら発展させてよりよいものを追求しようとし続けたりすることが知的な深まりを楽しむ姿であると考えられる。生活科では、友達の表現に「価値」を見出すために、思いの実現に向けた活動を通して、子どもが自分の学習状況に満足できるようにすることを大切にしている。心が満たされることで、自分以外の周りの人に目を向けることができるようになることと考える。そのために、まず、子どもが思いや願いを持って活動できるよう、必然性のある学習活動を子どもとともに考える。その後、教師は子どもと一緒に活動したり、見守ったり、付き合ったりしながら子どもの思いに寄り添い、学習展開を考えていく。そうすることで、子どもは思いの実現に向けて夢中になって活動し、成功や失敗を何度も経験する。さらに、活動を繰り返したり、対象との関わりを深める活動や体験の充実を図ったりすることで気付きの質が高まるとともに、満足感や成就感につながっていく。この経験を重ねていくことで、新たな学習活動への意欲や自分の自信につながり、自分の学習の状況を自覚することができる。そうすることで、自分の状況において足りないものやよりよくするためのものを探そうとして、他者（友達）に目を向けることができるようになる。そこで、自分に必要な情報を友達の活動の様子を見たり、相談したりしながら見付けていくことで、友達の考えのよさに気付くことができると考える。このように、共通の目的のもと、思いの実現に向けてよりよいものを追求するために友達とつながり、知的な深まりを楽しむことができる授業を目指すことで、子ども一人ひとりが友達と一緒に学習を進めていくことの楽しさを味わうことができるようにする。以下に、子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけについて述べる。

## 1. 子どもを「共通の土台」に乗せるための働きかけ

### ○単元を通して子どもの思いや願いを学習活動にする

生活科では、本時だけではなく毎時間の積み重ねで子どもを共通の土台に乗せていくことが大切だと考えている。子どもの思いや願いを毎時間つないでいくことで、子どものやりたいことが学習活動になる。「～したい」という子どもの思いは学習活動に向かう意欲になるとともに、活動の見通しになる。

本単元では、「さすがたの人と仲良くなりしたい」「1学期の町探検で見つけた謎を解決したり、新しく知りたいことをお店の人にインタビューしたりしたい」という子どもの思いをもとに学習を進める。そこから「仲良くなるためには、挨拶や自己紹介が必要だね」「インタビューするためにはそのお店にお願いをしないといけないよ」「お店の人が「待っています」と言ってくれたから行こう！」等と子どもが見通しをもち、一つひとつ段階を踏みながら活動を進めることを大切にする。

### ○子どもの視点をしぼる

町探検に出かけると、お店で働く人、お店の商品、お店の人の仕事等、様々な気付きが得られる。子どもたちは自分の興味関心をもとにたくさんの方に気付くが、子どもによって見ているものが違うと共通の土台に全員が乗ることは難しいのではないかと考える。そこで、ある子どもの「お店の人の人数は少ないのに、仕事がたくさんある」という気付きを全体に返し、「確かにぼくのお店もそうだよ」「私のお店もそうだ。なんだろう」という反応から、「お店の人の仕事を調査したい」という仕事に目を向けた共通の土台をつくる。すると子どもは「新たな探検 2C お仕事探検隊」と自分たちでネーミングし、「お店の人の仕事」に目を向けた探検をするようになる。

本時は、お仕事探検をした後の時間である。「お店の人の仕事」に目を向けた探検をして得た気付きが表現されるはずである。授業のはじめに、「お仕事探検の報告会をする」ことを確認し、仕事という視点で活動が進むようにする。

### ○どの子どもが考えを提示する状況をつくり、それを用いて話合わせる

本時は、自分のグループが特に知らせたい情報（聞いて聞いてナンバーワン）を選び、他のグループの友達に伝える活動である。グループのナンバーワンを決めるには、グループを構成する一人ひとりの考えが必要になる。しかし、気を付けないとある一人の子どもの意見でナンバーワンが決まってしまうことも想定される。そこで、教師は一人ひとりの考えが提示される状況をつくる。本時は、一人ひとりに自分が特に友達に伝えたいと思うお仕事カードを選ばせる。そして、グループでの話し合いの際、そのカードをホワイトボードに貼り、同じグループの友達がそれを目にするようにする。こうすることで全員が立場を表明し、話し合いの土台をそろえる。その後、貼ってあるお仕事カードを操作したり、カードの内容を話したりして、それが生かされるようにする。

## 2. 子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

### ○自分なりの価値を選ばせる

自分なりの価値を持っていないと、友達の表現に価値を見出すことは難しいのではないかと考える。価値と捉えるもとをもっていないからだ。そこで、子どもが自分の気付きをたくさん表現できる活動を取り入れる。本時は「お仕事カード」に表すことがそれにあたる。数が増えたお仕事カードの中から、自分にとっての1番を選ばせることで、その時点での自分の価値をもっておけるようにする。そのことが友達の表現に価値を見出す準備なのではないかと考えている。

### ○自分の考えをと友達の考えを比較する場をつくる

生活科では、困った時に相談できる、刺激し合える、協力し合える等の理由からこれまでも友達の存在は重要であると捉え実践を行ってきた。しかし、本年度「子どもが友達の表現に価値を見出すことができるよ

うにする」ということを目指すのであれば、これまで以上に友達を意識させなければならないと考えた。そして、友達のおかげで自分が成長できたと実感できる経験が必要ではないかと考えている。

生活科で友達の表現に価値を見出すきっかけになるのはどのような時だろうと考えた。①自分のしていることにある程度満足し、よりよいものを見出そうと友達に目を向けた時、②「こうしたいのにうまくいかない」という困り感から友達に目を向けた時、③自分の知らないことを教えてくれた時の大きく3つではないかと考えた。教師は子どもが友達に目を向け始めた状態を見取り、適切なタイミングで適切な活動を取り入れることが大きな働きかけであるように思う。例えば見せ合う・遊び合う・報告し合う等の活動で、自分の考えと友達の考えを比べる場をつくることである。評価し合う場とも言えるのではないだろうか。

本時は、比較の場が2回ある。1回目は、同じグループの友達と考えを比較する場である。この時は、同じことを経験している友達と考えを比較することになる。同じグループの友達の考えを知り、「〇〇ちゃんはそう考えているんだ」「確かにそれもいいな」と認めたり、「でも～だからわたしの考えもいいと思う…」と自分の考えを振り返り自分の考えを見直す。2回目は、報告会の時である。この時は、探検先が違う友達の考えを聞くことで、自分のグループの考えと比較する場となる。友達に知らせたいことを報告するので、教師が「比べましょう」と指示を出さなくても「Aさんのグループすごい!」「わたしたちと違う」等、友達の考えと比較して自分の状況を捉えるだろう。しかし、それを自覚するには教師が「どうだった?」と問いかけたり、振り返りの場を設定したりしてじっくり自分と向き合う時間をとることが必要だと考える。そして、「もっと～したい」という新たな思いをもち次時以降も活動を進めていく中でよりよいものを見出し、「あの時のAさんのおかげで～だということが分かったよ」と自分の成長と友達の存在を捉えられるようにしたい。

## 第2学年C組生活科学学習指導案

令和3年11月4日(木) 5・6校時 2C教室

授業者 廣瀬 愛

### 1. 単元名 もつとなかよし 町探検

### 2. 指導観

本単元は、学習指導要領内容(3)「地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。」を受けている。また、学習指導要領(7)「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」とも関連させながら学習を進める。

本学級の児童は、高知市内の様々なところから通学している。そのため、住んでいる地域と学校のある地域が異なる児童が多く、共通した「地域」がないことが大きな課題である。そこで、本単元を通して、子どもと一緒に「附属小学校2年C組の地域」をつくっていくことを大きなねらいにする。そのための関わりを中心にしたのは、「さすがた商店街」である。さすがた商店街を選んだのは、比較的學校からの距離が近いこと、お店の方が登下校の子どもたちの様子を見守ってくださっていることなどから、繰り返し探検に訪れるのに適していると考えたからだ。しかし、本学級の児童でさすがた商店街に関わりがあるのは、通学路としてさすがた商店街を通り、お店の人に挨拶をした経験がある数名である。そのような児童の実態から、1学期の探検は、まずさすがた商店街にどのようなものがあるのか知るところを大きなねらいにした。実際にさすがた商店街を歩くと、児童は様々なお店があることに気付いたり、「いい匂いがする!」と五感を使ってさすがたの町を感じたりしていた。その後探検を振り返ると、「お店の中に入ってよく見たいからもう一度行きたい」という思いが聞かれたので、良心市場とパン屋「たねまる」にインタビューを行った。その時は、お店の方と直接関わることが懸念される状況であったので、オンラインでインタビューを行った。オンラインインタビューでは、子どもが知りたいと思ったことを素直に聞く様子や興味関心が高まっている様子がお店の方にも伝わり、喜んでいただくことができた。そのようなつながりを2学期も継続し、より深めていきたいと思い、本単元を計画している。また、本単元が3学期の学習につながることを意識し、実践にあたる。

探検の計画を立てる第一次では、1学期の探検を振り返り「1学期の探検で見つけた謎を解決したい」、「さすがた商店街の方となかよくなりしたい」という子どもの思いから、探検のイメージを広げる。実際に探検に出かける第二次では、「なかよくなりしたい」という子どもの思いをもとに、挨拶や自己紹介をしたり、知りたいことを聞いたりしながらお店の人と関わる。お店の人と関わり様々な話を聞くことを通して、さすがた商店街の人・もの・ことに詳しくなるとともに、お店の人との関わりが深まっていくと考える。このように「なかよくなる」・「詳しくなる」を行ったり来たりする中で、「すごい!」「聞いて聞いて!」「友達に伝えたい!」と子どもの心が動き、自ら伝えたい気付きが得られるようにしたい。そのためには探検の目的を明確にして繰り返し関わらせ、子どもがさすがた商店街に親しみを感じ、自分とのつながりで捉えられるようにしていく。第3次は、2学期の探検を振り返り、3学期の探検への見通しをもたせて終えられるようにする。3学期は、大好きになったさすがた商店街と自分の住んでいる地域を比べ、それぞれの良さに気付かせるとともに、町探検の学習を頑張ってきた自分のすごさにも気付かせたい。

本時はそのお仕事探検での気付きを「お仕事カード」に表す。そして、グループで2Cの友達に知らせたいことを決めて実際に報告会をする。ここまでを2時間で行う。お仕事探検では、それぞれのお店の方が子

どもにいろいろな仕事を体験させてくださった。活動が充実していたので、「楽しかった!」「みんなに言いたいことができた!」と報告に来る子どもが何人もいた。その思いから、知らせたいことをお仕事カードにかく「やってみよう」(めあて)につなげる。子どもの思いが活動につながっているの、ほとんどの子どもが見通しをもって動き出せると予想する。動き出せない子どもがいる場合は、友達の動きを見て動い出そうとしている姿を見守ったり個別に支援をしたりしながら、全員が共通の土台に乗ってスタートできるようにする。子どもが動き出した後は、見守りと肯定的評価で子どもの活動を支える。「先生見て!」と報告してくる子どもの姿が見られたら、「知らせたいことがいっぱいあってすごいね」「そんなこともさせてもらったの!」等と子どもの報告に合った反応を返していく。また、仕事の楽しさや仕事をする人のすごさといった本時の価値に迫りそうな表現を見取り、肯定的評価をしたり詳しく聞いたりすることで価値付ける。その後活動が進み「できた!」という声が聞かれたり満足そうな子どもの表情が見られたりしたら、「お仕事カード」の中から「特に知らせたいこと」を選ぶ活動に移る。選ぶためには、これまでの気付きを見直すことが必要となる。見直すことで、体験を通した実感を伴った気付きを自覚できるようにしたい。お店によっては十分な体験ができていない場合もあるかと想定される。その場合は、生で見たことや心が動いたことから自分なりの思いをもって選んでいる姿を評価する。ここまでを1時間とする。

2時間目のはじめは、「報告会をしよう!」という新たなめあてを提示する。報告会での報告時間は3分であることを伝え、グループの中で「これは絶対に伝えたい」という「聞いて聞いてナンバーワン」を選ぶ必要があることを共有する。「ええ!全部言いたい」等の反応が予想されるので、「どれも大事な情報だよ。だから、最初に伝えるのを決めておいて、そのあと他の情報も伝えよう」と知らせ、大きな見通しを持たせる。しかし、話し合いの方法を伝えておかないと動き出すのが難しくなるので、話し合いのモデルを見せる。教師のモデルを見て子どもが「それいいね」「こうしたら?」等の反応が返ってくると予想されるので、そのアイデアを生かしながら話し合いのイメージをもたせる。ただし、グループでの話し合いなので、必ず全員話をすることは、先生からのミッションとして伝える。このように具体的な活動の見通しももたせることで本時の共通の土台に乗せたい。グループでの話し合いが始まると、子どもはチームで協力して「聞いて聞いてナンバーワン」を選ぼうとするだろう。子どもは、前時に一人ひとりが選んだ「特に知らせたい情報」をホワイトボードに貼り、自分の考えを示す。可視化されたものをツールに、子どもが自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりして、「そうそう!~だもんね」と伝えたい事をはっきりさせたり、「~ちゃんはそう考えているんだ。確かに~だもんね・・・」と考え直したりする姿を、積極的に評価したい。各グループが、「よし、これでいこう!」と納得して選ぶことができたなら、報告会を行う。今回は、6グループを前半に報告する3グループと後半に報告する3グループに分け、交代制で報告会を行う。友達に伝えさせることで、「知らなかった!」「もっと詳しく知りたい」等、素直な反応が返ってきたり、「すごいね!」と評価してもらえたりする場にする。友達が評価してくれることで、子どもが自分の気付きに自信をもち価値を自覚できるようにする。また、聞き手も刺激を受けることができる。伝え合いの後は、「友達の報告で素晴らしいと思ったことはありましたか」と問いかけ、友達のグループについて発表させる。素晴らしいと評価してもらったグループが、自分たちの価値を自覚できるようにする。最後はノートに振り返りを書かせる。ここでは、他のグループの報告を聞いたことで、自分のお店の人の仕事について再度考えたり、仕事をするお店の人について再度考えたりしている姿を評価する。また、同じグループの友達と協力したことの良さを感じたり、伝えたいことを伝えられたという満足感を得たりしている表現を価値づけ本時を終える。

### 3. 目標

- まずがた商店街に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりすることができる。

#### 4. 評価規準

単元の 評価規準 (町探検)		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
		ますがた商店街に関わる活動を通して、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かっている。	ますがた商店街に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えている。	ますがた商店街に関わる活動を通して、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。
小 単 元 に お け る 評 価 規 準	1		①行きたい場所や会ってみたい人、してみたいことを思い描きながら、計画を立てている。	①ますがた商店街やそこで生活する人々に関わることへの関心や期待をもちながら、それらと繰り返し関わろうとしている。
	2	①様々な人々に関わったりする際、相手や場に応じた挨拶や言葉遣いをしたり、訪問や連絡、依頼を適切に行ったりしている。 ②ますがた商店街への親しみを感じる人々や愛着がある場所が増えたり、それらの人々や場所が自分たちの生活を楽しくしたりしていることに気付いている。	②好きになった場所や親しくなった人々などのことを振り返りながら、友達や地域の人々などに知らせている。	②ますがた商店街の場所や人々に応じて、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。
	3	③ますがた商店街で生活している人々や様々な場所が自分たちの生活を支えていることや、それらが自分と関わっていることが分かっている。	③ますがた商店街の場所や人々を自分の生活と関連付けながら、捉えている。	③ますがた商店街の場所や人々への親しみや愛着をもって、それらのよさを大切にしようとしている。

#### 5. 指導と評価の計画

##### 1学期（済）

町探検に出かけよう（12）	1年生の時よりも立派な夏野菜を育てよう！
<ul style="list-style-type: none"> <li>住んでいる地域のお気に入り思い起こし、伝え合う。</li> <li>学校の周りにはどのようなものがあるか思い起こし、伝え合う。</li> <li>行ってみたいところを決め、探検の約束を考える。</li> <li>ますがた商店街を探検する。</li> <li>見つけたことや疑問に思ったことをカードにかき、友達と伝え合う。</li> <li>オンラインインタビューを行う。（今回は、パン屋「たねまる」と良心市場にインタビューをした）</li> <li>ますがた商店街で働く人々の生活が、お店によって違うことを知る。</li> <li>これからも探検を続けることを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年先の秋以降、冬野菜を育てた経験を思い出し、「収穫はできたけど、思っていたよりは大きくならなかった」という正直な思いから「1年生の時よりも立派な夏野菜を育てよう」という共通のゴールを設定する。</li> <li>本で調べたり野菜に詳しい人に聞いたりしながら世話を継続する。</li> <li>水やり・草引き・追肥・支柱立て・ネットをつける・案山子をつくる・虫よけのアルミホイルをつける等</li> <li>野菜の変化や自分が行った世話をカードに表現する。</li> <li>収穫し、学習を振り返る。</li> </ul>



## 2学期

○学習活動 ・子どもの反応	評価規準 評価方法	町探検との関連 ・子どもの反応
もつとなかよし 町探検		立派な冬野菜を育てよう
<p><b>小単元①</b> 町探検再開！計画を立てよう</p> <p>○町探検の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期にした町探検の謎がまだ残っているよ。</li> <li>・解決したいね。</li> <li>・さすがた商店街の人ともっと仲良くなりた</li> <li>い。</li> <li>・土日にお母さんに連れて行ってもらいたい。</li> <li>・お店にインタビューしたいな。</li> </ul> <p>○さすがた商店街のお店で冬野菜の種を買う。 ※さすがた商店街で買った種で冬野菜を栽培し、さすがた商店街のパン屋さんで使ってもら</p>	<p>思① 主① 発言 ノート</p>	<p><b>小単元①</b> 冬野菜を育てる計画を立てよう</p> <p>○育てる冬野菜を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町探検で関わったパン屋さん「たねまる」の商品に使ってもらいたいな。</li> <li>・「バインミー」には、大根と人参とパクチーが入っていたよ。</li> <li>・大根と人参は1年生の時育てていたね。</li> <li>・2Cの畑をたねまるさんの畑にしよう！</li> <li>・でも使ってもらえるのかな？</li> <li>・たねまるさんに聞かなくちゃ！</li> <li>・種も買わないといけない…</li> </ul>
<p><b>小単元②</b> もつとなかよC！町たんけん ～さすがた商店街取材しよう。～ 2CゴーゴーCテレビ</p> <p>○取材させてもらいたいお店をお願いをする。</p> <p>○さすがた商店街に探検に行き、1学期の町探検の謎を解決したり、知りたいことをインタビューしたりする。</p> <p>○お店の仕事を体験させてもらう。</p> <p>○インタビューをして知ったことや体験して分かったことを情報カードにかき、情報カードを増やしていく。</p> <p>○情報カードの中から友達に伝えたいことを選び伝える。</p> <p>○必要に応じて繰り返し探検に出かける。</p>	<p>知① 行動観察 手紙・FAX 思② 情報カード 発言 主② ノート 行動 知② 情報カード</p>	<p><b>小単元②</b> 世話を続けよう</p> <p>○自分なりの思いや願いをもち、友達と協力して種をまき、その思いを表現する。</p> <p>○野菜の成長に自分なりの思いをもち、工夫しながら毎日の世話に取り組むことができる。</p> <p>○野菜の観察カードを、たねまるさんへの報告書とし、相手意識をもって表現する。</p> <p>※野菜の成長（発芽・開花・結実）に合わせて、適した活動を設定する。</p> <p>常時活動 水やり、草引き、土寄せ 等</p> <p>○さすがた商店街の種屋さんに、冬野菜の育て方についてアドバイスをもらう。</p> <p>○さすがた商店街のパン屋さんに、どんな野菜が商品に使いやすいか等をインタビューする。</p>
<p><b>小単元③</b></p> <p>○2C ゴーゴーC テレビとして、2学期の学びを動画に残す。</p> <p>○伝えたいことが伝わる適切な方法を考える。</p> <p>○さすがた商店街の人たちと仲良くなったことを振り返り、3学期の計画を立てる。</p>	<p>知③ 思③ 主③ ノート 動画</p>	



### 3学期（予定）

<p style="text-align: center;">まちのすてきを伝えよう ～ますがた商店街へ恩返し～</p>	<p style="text-align: center;">小単元③ ※3 学期 収穫した野菜を届けよう</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お世話になったますがた商店街に向けてできることを考え、実践する。</li> <li>・ますがた商店街と自分が住んでいる地域を比べ、それぞれのよさに気付くとともに、そのよさに気付いたのはこれまでの町探検の学習を頑張ってきたからだということに気付く。</li> <li>・今後もますがた商店街に関わろうという思いをもったり、自分の住んでいる所にも詳しくなりたいなという思いをもったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した冬野菜を、ますがた商店街のパン屋さんで使ってもらおう。</li> <li>・町探検でお世話になったお店の方へプレゼントする。</li> <li>・学習を振り返る。</li> </ul>

### 6. 本時の指導（2時間続き）

#### (1) 目標（11月4日 木曜日 5時間目）

お仕事カードから特に友達に知らせたいことを選ぶ活動を通して、ますがた商店街のお店やお店で働く人についての気付きを見直すことができる。

#### (2) 評価規準

☑ お仕事カードから特に友達に知らせたいことを選ぶ活動を通して、ますがた商店街のお店やお店で働く人についての気付きを見直している。（行動・発表・情報カード）

#### (3) 展 開



学習活動 ・ 主な児童の反応	○教師の働きかけ □評価規準（評価方法）
<p>1. 「やってみよう」（めあて）を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなに知らせたいことがあるよ。</li> <li>・すごかったんだよ！</li> <li>・〇〇グループすごい！</li> <li>・何の仕事をしているんだろう。</li> </ul>	<p>○お仕事探検に行ってから1日空いているので、各グループ1枚だけ写真を見せ、「そうそう！あのことを情報カードにかきたいんだ」と思い起こせるようにする。また、他のグループの子どもが、「〇〇グループは面白そうな体験をさせてもらっているぞ。知りたいな」と興味がわくようにする。</p>
<p>㊦ 2Cのみんなにほうこくするために おしごと(情報)カードをかこう。</p>	
<p>2. 「おしごとカード」にかき表す</p> <p>①たねまるさん（パン屋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袋詰め・楽しい こぼさないように入れるのが難しい <u>お店の人は～が上手</u> ガラス拭き・大変 お休みの日にパンを作っているんだよ。</li> </ul> <p>②なるこどうさん（お煎餅屋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじさんとおばさんの<u>関係プレー</u> 暑かった！ 1,000枚 回転式煎餅焼き 勝手にひっくり返る裏表2回ずつ <u>おばさんは切るのが速い！</u></li> </ul> <p>③干物屋さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>新聞紙を折る・魚を包むため・大事な仕事・お客さんのため</u> お客さんに「いらっしゃいませ」と言った お客さんにお話ししていた</li> </ul> <p>④良心市場さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大根を並べた・重かった レタスを袋に入れてガシャンとしぼったよ 値段のシールを貼ったよ クリスマスケーキのちらしをもらったよ。ケーキは売ってなかったのに <u>仕事は疲れるけど楽しいと教えてくれたな</u> 忙しい</li> </ul> <p>⑤お肉屋さん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お肉がミンチになった！ ソーセージの中もミンチだったよ 段ボールを潰した-いっぱいあったけど楽しかった お店の人が車で捨てに行ったよ <u>ぼくたち「ありがとう」と言われたよ</u> ね。</li> </ul> <p>⑥カタ屋シードさん（種屋）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品を運ぶのを手伝った・重くて大変だったよ。</li> </ul> <p>3. 集まった情報カードを見直し、自分にとって特に友達に知らせたいことは何かを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・袋詰めの仕事をしてお店の人のすごさに気付いたからそれを伝えたいな。</li> <li>・煎餅を焼いているときの、おじさんとおばさんお関係プレーを伝えたいな。50年の愛情を感じたんだよね。</li> <li>・干物屋のおばさんは、魚を包むために新聞紙を一人でたくさん折っているんだよね。</li> </ul>	<p>○1つのグループの体験を取り上げてかき表し方の例を見せる。体験したことだけ書いたカードと、「体験したこと+感じたこと（分かったこと・考えたこと）」のように、体験したことだけでなく体験から実感したことや分かったことを書いたカードの2つを提示し、後者の方がよいことに子どもが気付けるようにする。後に、このことを意識してかき表している子どもの姿を見取り、「いいね」「なるほど」と認める。</p> <p>○Kちゃんが、なるこどうグループに「絵を描いてきてよ！」と頼んでいたことを例に、報告を楽しみにしている友達がいることを伝えて2Cのみんなに伝えたいという意欲を持ち続けられるようにする。</p> <p>○体験させてもらった仕事の数に差があるだろう。その場合は、インタビューをしたり近くで見せてもらったりしたことを思い起こし、お店の人の仕事についてかき表している姿を認めて活動を支える。</p> <p>○個人で行う活動だが、グループ隊形にしておく。友達に負けられないように情報カードを増やしたいという気持ちを芽生えさせたり、相談したい時に相談したりできるようにすることがねらいである。</p> <p>○各グループを回りながら、本時の価値に近づきそうな表現を見取り、詳しく聞いたり印を入れたりして価値付ける。</p>
<p>友達に伝えたいと思って選ぶ視点</p> <p>☆「え！」驚き・「なるほど」納得・「大変だ」苦労等、心が動いたこと→人のすごさ</p> <p>☆自分のチームならではのろうという思い</p>	<p><b>本時の価値</b></p> <p>お店の人の仕事を体験したり近くで見たりして感じたこと・分かったこと＝実感を伴った気付き＝その仕事をしているお店の人のすごさ？</p> <p>○情報カードが増えたことを「さすがだね！」「さすが2Cお仕事探検隊！」と称賛する。そうして気付きが増えたことの喜びを子どもが感じられるようにする。</p> <p>○その後、「たくさん情報が集まったけど、その中で特に友達にお知らせしたいのはどれ？」と問いかけ、情報カードにかき表した気付きに再度目を向けるきっかけをつくる。「友達に知らせたいのは…」という視点で気付きと気付きを比べ、自分のとっておきの気付きを自覚できるようにしたい。</p> <p>○選んだカードに印を入れさせ、何を選んで見られるようにする。裏にはマグネットを貼らせる。</p> <p>○どの子ども自分なりの考えをもって、次のグループでの話し合いに参加できるようにする。（次の活動の土台に乗せる）</p> <p>㊦ お仕事カードから、特に友達に知らせたいことを選ぶ活動を通して、さすがが商店街のお店やお店で働く人についての気付きを見直している。 （行動・発言・情報カード）</p>

(1) 目 標 (11月4日 木曜日 6時間目)

友達との報告会を通して、心が動いたお店の仕事やお店で仕事をする人のすごさについて友達に伝えることができる。(情報カード・行動・発表)

(2) 評価規準

☹ 友達との報告会を通して、心が動いたお店の仕事やお店で仕事をする人のすごさについて友達に伝えていく。(情報カード・行動・発表)

(3) 展 開

学習活動 ・ 主な児童の反応	○教師の働きかけ □評価規準 (評価方法)
<p>1. 「やってみよう」(めあて)を確認する</p> <div data-bbox="165 495 786 562" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>◎おしごとたんけんの ほうこくかいをしよう。</p></div> <p>2. 「聞いて聞いてナンバーワン」を選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私から言うね。私は～を選んだよ。</li><li>・ぼくはこれだよ。</li><li>・〇〇ちゃんと〇〇くんは同じだね。近くに貼ろう。</li><li>・～は絶対に知らせたいよね。</li><li>・賛成。だからこれを「聞いて聞いてナンバーワン」にしよう。</li><li>・よし、ナンバーワンマークを貼るよ。</li><li>・〇〇ちゃんのは、関係があるから次に言おうよ。</li><li>・何て伝えたらいいのかな。</li><li>・動きをつけてみようか。</li><li>・まだ時間があるから練習しよう。</li></ul> <p>3. 伝え合う</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・なるこどう探検隊です。ぼくたちの「聞いて聞いてナンバーワンは～です！」</li><li>・すごい！</li><li>・もっと詳しく教えて！</li></ul> <p>4. 振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・なるこどうグループが、お煎餅の焼き方を実演してくれたので、煎餅を焼くおじさんのすごさがわかりました。</li><li>・たねまるグループの報告を聞いて、たねまるさんはいろいろな仕事をしていると分かりました。</li><li>・ぼくたちのナンバーワンを伝えたら、Aさんが「すごいね！」と言ってくれたので嬉しかったです。お仕事体験ができてよかったです。</li><li>・他のグループの報告を聞いて、ぼくたちのお店の人は1人なのにたくさん仕事をしていてすごいと思いました。</li><li>・他のグループのナンバーワンを聞いて、もう一度取材に行きたいと思いました。もっとすごいナンバーワンが見つけたいです。</li><li>・次は、今日聞けなかったグループの報告を聞きたいです。</li><li>・お店によって仕事が違うし、いろんなお仕事があるんだなと思いました。</li></ul>	<p>○一人ひとりが選んだ特に知らせたいカードをもとに、これだけは必ず伝えようという「聞いて聞いてナンバーワン」をグループで決めさせる。子ども一人ひとりが選んでいるカードに優劣はないので、報告時間が3分であることを伝え「まずは」「これだけは必ず」というカードを選ぶことを伝える。</p> <p>○ホワイトボードにカードを貼らせ、そのカードを子どもが操作しながら知らせることを整理できるようにする。</p> <p>○同じ考えや関連するものは近くに貼ること等を、実際にやりながら見せる。</p> <p>○一人の意見で決めたり、多数決で決めたりしないように、ランキングを決める時は必ず全員がお話することを先生からのミッションとする。</p> <p>○子どもなりに納得して選ぶとする姿や、伝え方を工夫しようとする姿を評価する。</p> <p>○取材先が違う友達に報告する場をつくり、「知らなかった!」「もっと詳しく知りたい」等、素直な反応が返ってきたり、「すごいね!」と評価してもらえたりする場にする。また、聞き手もお店の仕事について知ったり刺激を受けたりできるようにする。</p> <p>○報告を聞いている時、「すごい!」「知らなかった!」と反応したり拍手や「すばらC」等と反応を返したりしている子どもの姿を見取り、その姿を広げることで価値づける。友達が評価してくれることで、子どもが自分の気付きに自信をもち価値を自覚できるようにする。</p> <p>☹ 友達との報告会を通して、心が動いたお店の仕事やお店で仕事をする人のすごさについて友達に伝えている。(情報カード・行動・発表)</p> <p>○「友達の報告で素晴らしいと思ったことはありましたか」と問いかけ、友達のグループについて発表させる。素晴らしいと評価してもらったグループが、自分たちの価値を自覚できるようにする。</p> <p>○最後にノートに振り返りを書かせる。ここでは、他のグループの報告を聞いたことで、自分のお店の人の仕事について考えたり、仕事をするお店の人について考えたりしている姿を評価する。</p>